

株式会社クレディセゾン(8253) 2016年度4-9月期決算発表

2016年度4-9月期は、「サービス先端企業」として、「Neo Finance Company in Asia」を経営ビジョンに掲げた中期経営計画に基づき、金融サービスを中心とした多様なビジネス領域と戦略的な商品・サービスの開発を通じて、個人のみならず法人に対する最適なソリューションの提供を強力に推進しました。

持続的成長を支える顧客基盤の拡大に向けた新規カード会員の獲得強化やネット会員の増強に加え、キャッシュレス社会の実現を目的に、グループ全体で3,600万人超のセゾンカード・UCカード会員様を対象に、2016年10月より国内でサービスを開始した「Apple Pay」など、新たな決済サービスを通じて決済プラットフォームの拡充を推進しました。さらに、信用保証事業やファイナンス事業では、多様な資金ニーズに対応したファイナンス商品を通じて、有力な提携先との連携により、良質な債権の積み上げに努めました。

また、資産運用ビジネスでは、最先端のIT技術と金融知識を活用し、2016年9月より、マネックス・セゾン・バンガード投資顧問(株)において、個人向け投資一任運用(ロボ・アドバイザー)サービス「MSV LIFE」の提供を開始しました。

海外事業展開では、ベトナム、インドネシアにおいて、現地企業との戦略的パートナーシップにより、リテール金融ビジネスの拡大に取り組み、収益貢献しております。

当連結会計年度の主なセグメント別概況は次の通りです。

1. 営業概況

(1) クレジットサービス事業

新規カード会員を拡大し、顧客基盤を拡充。ショッピング取扱高・リボルビング残高が伸長し、営業収益1,039億円(前期比3.6%増)。

- ① 「三井ショッピングパークカード《セゾン》」など、提携先企業と共同での会員募集に加え、CMなどのプロモーション実施やタブレット端末を活用した申込み受付を強化し、グループ全体でのカード総会員数は3,618万人となりました。
- ② カード取扱高拡大では、お客様のカードご利用状況や提携先小売店舗を中心としたカード利用活性プロモーションやリボルビング払いなどの訴求強化により、ショッピング取扱高は2兆1,799億円(前期比4.2%増)、リボルビング残高は前期末より215億円増加し、3,602億円(前期末比6.4%増)となりました。
- ③ 個人事業主や中小企業を中心に企業の経費精算業務の省力化などビジネスをサポートする法人向けカードやサービスの提供を通じた法人決済のキャッシュレス化を推進し、法人向けカードが前期比18%増加した結果、取扱高は前期比21%伸長しました。
- ④ ネットを活用した収益力の強化として、ネットビジネスの基盤となるネット会員の増強に注力した結果、ネット会員は66万人増加し、1,317万人に拡大しました。
- ⑤ 2016年5月には、(株)デジタルガレージと協業により構築した「プライベートDMP(Data Management Platform)」(セゾンDMP)を用いたネット会員向けの広告配信を開始するなど、効果の高い広告の販売が可能となりました。さらに、平成28年7月に(株)デジタルガレージ、(株)カカコム及び当社の3社において、多様な業界の企業が参画し事業を共同で創出することを目的とした、オープンイノベーション型の研究開発組織「DG Lab」を設立しました。
- ⑥ 海外事業展開では、ベトナム「HD SAISON Finance Company Ltd.」において、二輪や家電向けローンを中心に取扱件数・貸付残高ともに拡大しました。また、平成28年7月に開業した「ホーチミン高島屋」にファイナンスサービスカウンターを出店したほか、現地アライアンスの開発やファイナンス取扱商品の拡大を推進しました。インドネシア「PT.Saison Modern Finance」では、リース事業の拡大に取り組みました。

(2)リース事業

既存主力提携販売店との共同キャンペーン実施や新規重点販売店への営業強化に努め、取扱高は552億円（前期比4.5%増）、営業収益67億円（前期比0.6%減）。

(3)ファイナンス事業

多様な資金ニーズに対応する商品を強みに提携先との密接な連携強化により、良質債権の積み上げに取り組み、営業収益151億円（前期比18.6%増）。

- ① 信用保証事業は、事業資金にも対応したフリーローン保証商品を通じて、地方銀行や信用金庫など地域金融機関とのきめ細かな連携体制の構築に努めた結果、提携先数は399先（前期差11先増）、保証残高は3,176億円（前期末比6.6%増）となりました。
- ② 長期固定金利住宅ローン「フラット35」では、前期より取扱いを開始した「セゾンのホームアシストローン（住宅購入時の諸費用ローン）」など商品ラインナップの拡充効果等により、実行金額692億円（前期比59.6%増）、住宅金融支援機構への債権譲渡済み残高は3,936億円（前期末比10.7%増）となりました。
- ③ 投資用不動産購入をサポートする「セゾンの資産形成ローン」は、有力な提携先との連携強化により、実行金額464億円（前期比114.7%増）、貸出残高は1,692億円（前期末比34.0%増）と堅調に伸長しました。また、平成28年9月より「セゾンの不動産投資ローン」の取扱いを開始しました。

2. 経常利益・純利益概況

単体業績は、営業収益1,171億円（前期比5.0%増）、営業利益213億円（同5.0%増）、経常利益239億円（同8.9%増）、純利益210億円（同65.5%増）の増収増益となりました。

一方、連結業績では、不動産関連事業の前年同期において、連結子会社（株）アトリウムの再構築計画に伴う大口不動産の売却による一時的な売上増加の反動減等により、営業収益1,372億円（前期比1.7%増）、営業利益254億円（4.9%減）、経常利益310億円（9.4%減）、純利益は282億円（22.7%増）となりました。

なお、2016年度通期の業績予想につきましては、5月13日に公表しましたとおり、営業収益2,780億円、営業利益420億円、経常利益500億円、当期純利益385億円と変更はございません。

以上

(ご参考)2016年度4-9月期 単体業績

(1)新規カード開拓枚数	:	162万枚	(前期比0.5%減)
(2)新規カード発行枚数	:	128万枚	(前期比0.3%減)
(3)カード総会員数	:	2,601万人	(前期末からの純増数40万人)
(内ネット会員数)	:	(1,317万人)	(前期末からの純増数66万人)
(4)稼働会員数	:	1,472万人	(前期末からの純減数5万人)
(5)カードショッピング取扱高	:	2兆1,799億円	(前期比4.2%増)
(6)カードショッピングリボ残高	:	3,602億円	(前期末比6.4%増)
(7)カードキャッシング取扱高	:	1,294億円	(前期比5.5%減)
(8)カードキャッシング残高	:	2,161億円	(前期末比0.2%減)
(9)営業収益	:	1,171億円	(前期比5.0%増)
(10)経常利益	:	239億円	(前期比8.9%増)
(11)純利益	:	210億円	(前期比65.5%増)